

令和 2 年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費及び
 国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業費補助金
 実施結果報告書

| | | | | | |
|---------------|---|-----------------------------|----------------------|---------------|-----|
| 事業名 | 屋久島国立公園口永良部島における動植物保全推進活動の成果を活用したサステナブル・エコツアーによる離島再活性化 | | | | |
| 事業実施の団体名 | 子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組 | | | | |
| 国立公園等名称及び実施地区 | 屋久島国立公園（口永良部島） | | | | |
| 補助事業の実施期間 | 令和 2 年 9 月 15 日 ～ 令和 3 年 2 月 26 日 | | | | |
| 事業実施団体情報 | 事業実施の代表者 | | | | |
| | 氏名 | 事業者名・役職名 | | | |
| | 山口 英昌 | 子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組 会長 | | | |
| | 電話番号 | FAX 番号 | E-mail アドレス | | |
| | 0997-49-2022 | 0997-49-2022 | Yama3hide3@gmail.com | | |
| | 事業実施の担当者（事業の窓口となる方） | | | | |
| | 氏名 | 事業者名・役職名 | | | |
| | 山口 英昌 | 子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組 会長 | | | |
| | 電話番号 | FAX 番号 | E-mail アドレス | | |
| | 090-5866-2537 | 0997-49-2022 | Yama3hide3@gmail.com | | |
| 所在地 | 鹿児島県熊毛郡屋久島町口永良部島 1232-3 | | | | |
| 備考 | | | | | |
| 団体概要 | (1) 立ち上げ 「子々孫々の口永良部島を夢見るえらぶ年寄り組」(略称えらぶ年寄り組)の発足(2012年)にあたっての 入会呼びかけ文は“体と口の動く人は、誰でも参加できます。そして、地区の活動とはひと味違う潤いのある活動をめざします。口永良部島の環境や生き物、歴史遺産をまもり、それらの子々孫々に伝えたいと願うとともに、日々の暮らしに忙しい働き盛りの人たちの役にも立ちたいと思います。”であった。 全島が国立公園でありユネスコエコパークである地に暮らす島民として、忙しい若い人達に代わって、 ①島の自然を知る、②自然を見守る、③発信する・・・を活動の中心にしている。 2012年8月に発起人3名で発足した。その後、増減はあったが、現在、9名の会員で運営している。 (2) 組織 会員の互選で選んだ役員（会長、副会長、会計、監査）4名が執行部を担い、中心となって組織を運営している。 表 役員名簿 令和 3 年 2 月 25 日現在 | | | | |
| | | 氏名 | 住所 | 電話 | 役職 |
| | 1 | 山口英昌 | 屋久島町口永良部島 | 090-5886-2537 | 会長 |
| | 2 | 後藤利幸 | 屋久島町口永良部島 | 0997-49-@@55 | 副会長 |
| | 3 | 山口米子 | 屋久島町口永良部島 | 0997-49-@@22 | 会計 |
| | 4 | 石黒 誠 | 屋久島町口永良部島 | 0997-49-@@34 | 監査 |
| | (3) 活動 定期的に活動しているが、人手が必要な場合は、その都度、島民に呼びかけ、ボランティアでの参加を募って調査や保護活動などを行っている (4) 財政 原則的に会員の持ち寄りや寄付を頼りに運営してきた。公共団体や財団の事業を受託したり、助成金を獲得するなどしてきた。補助金が獲得できた場合には、アルバイト費を出す事ができるが、多くはボランティアで活動に参加してもらっている。 (5) 会則と諸規程 会則は、発足当初に定めていたが、諸規程はなく、不備のままに今日に至った。今回の補助金の交付申請を機会に、就業規則や給与、出張規程などを整えた。恒常的な財源がないので規程は、補助金が獲得できた場合に適用する方針である。 | | | | |

<事業の概要>

(1) 実施した全ての事業について、それぞれの内容を記入してください。

| 項 目 | 内 容 |
|----------------------------------|--|
| <p>公募要領 p. 4 「2 補助事業の内容」</p> | <p>該当内容に☑してください。 <input type="checkbox"/>①コンサルティング、事業計画の策定 <input type="checkbox"/>②テストマーケティングまたはファムトリップ、必要な調査 <input checked="" type="checkbox"/>③海岸清掃、修景伐採、歩道修繕等、準備に向けて必要な環境整備 <input checked="" type="checkbox"/>④必要資材等の購入及び賃借 <input checked="" type="checkbox"/>⑤ツアー・イベントまたはワーケーション等の実施（二次交通の構築を含む） <input checked="" type="checkbox"/>⑥パンフレットやホームページ等の情報発信媒体の整備及び多言語化、キャッシュレス化 <input checked="" type="checkbox"/>⑦研修、人材育成</p> |
| <p>事業の目的</p> | <p>本補助事業者である「えらぶ年寄り組」は、2012年の発足以来、口永良部島の動植物を調査・保全し情報発信する活動を行ってきた。国立公園やユネスコエコパークの「自然を暮らしに活かす」理念を地元島民の責務として実践するために、「ボランティア体験・学習キャンプ事業」を2016年に立ち上げた。</p> <p>「キャンプ事業」の参加者は、無料で宿泊して、①エラブオオコウモリの生息調査、②希少ラン類の探索・保護、③ノヤギやヤクシカの生息実態調査、④林床植生調査と獣害防止など保全活動をボランティアで手助けする。宿泊費無料で国立公園に滞在し、学び楽しむことができる。一方、主催者の「えらぶ年寄り組」は、保全活動の人手を確保でき、双方が補完しあえる事業であることを特徴としている。さらに2019年には、申請者は屋久島里めぐり推進協議会による「里めぐり（口永良部島）」事業に参画し観光客を受け入れてきた。</p> <p>ところが、2020年初頭に発生した新型コロナウイルス感染症パンデミックにより、これら「えらぶ年寄り組」の活動は中断した。それにもまして深刻なことは、来島する観光客が減少し、民宿経営が圧迫される事態を招いたことである。ただでさえ噴火災害の影響を受けている離島口永良部島の経済は深刻な状況に陥った。</p> <p>そこで本事業では、これらの事態を回避するために、屋久島国立公園・口永良部島において島民が行ってきた動植物の保全推進活動を活用し、観光客に、国立公園の豊かな自然を楽しみながら、生物多様性保全を体験的に学習することができるエコツアーを策定するとともに、ツアー実施の環境を整備する。</p> <p>具体的には、これまで申請者が無料で実施してきた「ボランティア体験・学習キャンプ事業」を発展的に改組・有償化し、新たに「生物多様性保全・体験エコツアー事業」を立ち上げる。加えて、「里めぐり」事業を実施している屋久島里めぐり推進協議会と連携して、「夜の里めぐり」ツアーを提案するなどして、新規エコツアー商品を創成する。</p> <p>本事業の目的は、新型コロナウイルス感染症拡大が収束するまでの間の地域雇用を維持・確保し、コロナ禍により減少した観光客の回帰を図り、宿泊経営を再興して、島の経済の再活性化につなげることを第一義とする。同時に、全島が国立公園である口永良部島の生物多様性保全推進と啓発に資することをも目的とする。</p> |
| <p>事業の概要</p> | <p>本事業では、上記目的を達成するために、次のようなツアー商品を策定するとともに、ツアー実施を円滑に運ぶための環境整備を行った。その上でツアーを募集し、実施を試みた（申請した計画書では、<u>ツアーを実施し</u>、としていた）。応募問い合わせはあったが、コロナ禍が原因となり、民宿の受け入れに困難で実施することができなかった。次年度以降を見据えた宣伝活動を行っている。</p> <p>(1) 口永良部島における動植物保全推進活動の位置づけの再検討 本事業は、申請者「えらぶ年寄り組」が、屋久島町、屋久島環境文化財団、環境省などの事業委託や助成金を受けて実施してきた「動植物保全活動」を基盤にしてツアーを創成するものである。そこで、事業策定に当たって、保全活動の位置づけや対象、手法などを再検討するため、関係機関と意見交換し既存する保全活動の活用指針を設定した。</p> <p>(2) エコツアー商品の創成とコンテンツ策定と実施 保全推進活動の活用指針を踏まえて、エコツアー商品の創成とコンテンツ策定を行う。</p> <p>2-1) 生物多様性保全体験ツアーの創成と実施 これまで「えらぶ年寄り組」が実施してきた「ボランティア体験学習キャンプ事業」を発展的に改組・有償化し、新たに「学習・キャンプツアー」（申請書では「生</p> |

物多様性保全・体験ツアー事業)を立ち上げる。宿泊には、民宿と借り上げキャンプ場(小屋)を利用する。

表1 学習・キャンプツアーの対象と内容

| ツアー名 | 対 象 | 内 容 |
|--------------|-----------|--|
| 生物多様性保全体験ツアー | 社会人 | 参加者は「えらぶ年寄り組」が実施する生物多様性保全活動で体験的に生物多様性を学ぶとともに、国立公園の豊かな自然を楽しむ。 フェリー欠航の対策に、屋久島のNPO団体と連携する。 |
| | 学童・生徒・大学生 | |
| | 修学旅行・企業研修 | |

生物多様性体験学習テーマと内容の当初案を表2にまとめた。コンテンツは、関係機関と協議した新指針に基づいて再検討した。

表2 学習・キャンプツアーの体験テーマと内容

| | 体験テーマ | 内 容 |
|---|-----------------|--|
| A | エラブオオコウモリ調査・観察 | 夜間観察会や学習会 |
| B | ウミガメ観察 | 観察会、学習会 漁師会(漁親会)と連携した観察会 |
| C | ヤクシカ・ノヤギ調査・観察 | 夜間調査・観察会。猟師会と連携しワナ猟とヤクシカ・ノヤギ解体利用の実習・体験 |
| D | 希少ラン類調査・観察 | 調査、観察会、学習会 |
| E | 火山と共生する暮らし・火山学習 | 2015年大噴火を映像で紹介し、火山活動や火山と共生する暮らしや歴史を紹介する。 |
| F | 植樹・林床植生調査 | エラブオオコウモリ被食樹の植樹活動、林床植生保全 |

2-2) 島めぐりツアー(旧称:「里めぐり」関連ツアー)の創成と実施
屋久島里めぐり推進協議会が開催する集落案内型の「里めぐり(口永良部島)」を担うとともに、エラブオオコウモリや都会では見られない星空を楽しむ夜間開催「里めぐり」(新称:島めぐりツアー)を協議会と連携して創成し、ホームページ上で募集した。事業終了の直前に旅行会社からの問合せがあり、2021年10月~11月に3回のツアーが催行されることが決まった。

また、屋久島里めぐり推進協議会がツアー会社と連携して開発した「里めぐり」を組み込んだパック旅行商品に、「口永良部島里めぐり」(新称:島めぐりツアー)を組み込む方策を検討し、旅行会社に働きかけるとともに、ホームページ上で募集した。

表3 島めぐりツアーの種類と内容

| ツアー名 | 種 類 | 内 容 |
|-------------------------------------|-------------|--|
| 島めぐり ツアー (旧称: 里めぐり ツアー) | 集落案内型(既存) | 集落をめぐり、火山と共生する暮らしや歴史を紹介 |
| | 夜間型(新規) | エラブオオコウモリ観察や都会では見られない星空を観望する。 |
| | パックツアー型(新規) | 旅行社のパックツアー商品の一部に「里めぐり」を組み込んだツアー。屋久島で始まったので口永良部島版を開発する。 |

(3) エコツアー実施のための事前準備

ここで「エコツアー」とは、学習・キャンプツアーと島めぐりツアーを総称する。

1) 教材作成

火山噴火時の対処方法や感染症予防策のマニュアルや、参加者に注意する冊子や、保全活動の意義を説明した動植物の観察ガイドなどを作成した。

2) 人材養成研修

観光客受入れ関係者のニーズを聞き取り、接客スキルの向上を目した研修会を実施し人材養成を図った。

| | |
|-------------------------|---|
| | <p>3) 視覚情報媒体の整備 エコツアー参加者だけでなく、来島する観光客を対象とした動画を作成し、教材に用いるとともに、観光センター（観光案内所の誤り）や口永良部島資料館（中学校内にあるため、コロナ禍が鎮まるまでツアー対象から外している）でプレゼンテーションに供した。エコツアーで使用する映像媒体、ホームページの作成にも活用した。</p> <p>4) 受け入れ施設の環境整備 ①観光案内センターの整備 観光案内センター内に「里めぐり」や島めぐりツアー客の受け入れコーナーを設置・充実した。 ②「口永良部資料館」を整備し、エラブオオコウモリなどの展示コーナーを充実した。 ③キャンプ場（小屋）の整備と観光関連施設の整備</p> <p>5) 創成ツアーの募集（計画では、実施するとしていた） コロナ対策を万全にしようとして、創成したツアーを募集した（計画では、実施するとしていた）。一般観光客はもとより春季休暇中の大学生や高校生、生徒、学童を対象にした学習・キャンプツアー（旧称：「生物多様性保全体験ツアー」）と、旅行社と協働した「里めぐり」が含まれたパックツアー（島めぐりツアー）を募集した（計画では、実施するとしていた）。参加者や保護者からのアンケートを分析して問題点を洗い出し、次年度以降に備える。</p> <p>（4）新型コロナウイルス対策 モデルエコツアー実施に先立ち次のようなコロナ対策を立てた。 1) ツアー実施時のコロナ対策案の策定（再掲） 2) 3密を避けるエコツアーのマニュアル作成 名称変更⇒コロナ対策マニュアル（ツアー事務局用）作成 3) コロナ対策用の衛生資材の購入・整備</p> |
| <p>地域経済の再活性化</p> | <p>事業主体は、地元の自然保全団体である「えらぶ年寄り組」が担った。 1) 民宿や漁師会、猟師会、婦人会との連携によるツアー内容の充実を図った。 2) 地元ガイド協会や屋久島の自然保護団体と連携し、「修学旅行生」を誘致する。また、協会が実施する「里のエコツアー」などコンテンツを相互提供し、オール口永良部島体制の中で観光客の増加を図り、来島・交流人口増大に寄与する。 3) 本事業は、口永良部島の動植物の保全活動を活用してエコツアーを策定・実施するもので、自然資源やその魅力を最大限に活用する点に特徴がある。自然保全しつつ、その自然を暮らしに活かす事業として、持続的な経済発展を目指す。</p> |
| <p>地域における適切な事業体制の確保</p> | <p>申請者はすでに、環境省のグリーンワーカー事業やエラブオオコウモリ保全推進事業、屋久島環境文化財団の助成を受けた動植物の保全・調査活動や「ボランティア体験・学習キャンプ事業」、屋久島町のウミガメ調査・監視業務、屋久島里めぐり事業推進協議会の「里めぐり」事業を実施してきた実績があり、それを本事業の基盤としている。屋久島町や関連団体とは、今後の連携体制のスムーズな構築が見込める。</p> |
| <p>自然環境の保全</p> | <p>本事業で策定したエコツアーは、申請者が従来実施してきた動植物の保全事業が基盤となっている。国立公園の自然資源を守ると同時に自然資源を活用し、観光客の集客につなげ地域活性化に資することを特徴としており、環境保全に配慮した事業として構成されている。全島が国立公園とユネスコエコパークに指定されている島の地元島民として「自然を暮らしに活かす」、「環境を保全する」などの理念を実践する事業である。</p> |
| <p>目標とする成果とその達成状況</p> | <p>[1] 当初の目標 申請時に掲げた目標は、下記の下線のように記した。 <u>(1) 目標とする成果</u> 1) 若い世代への生物多様性の啓発 2) キャンプ、里めぐり事業による民宿宿泊客の増大 3) キャンプ指導や語り部などを担う人材の育成と就業促進 4) 地元ガイド協会や屋久島の自然保護団体と連携して、修学旅行生を誘致する。 <u>ガイド協会が実施する「里のエコツアー」などへのコンテンツ相互提供による島内事業促進</u> <u>(2) 数値目標</u> これまで実施してきたキャンプ事業では、ピーク時150人・日、昨年度は30人・日であった。生物多様性保全体験ツアーでは、2泊3日10名計10グループ（延べ300人・日）を目標とする。修学旅行では4泊5日10名5グループで（延べ200</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>人・日)を見込む。また、パックツアー型「里めぐり」事業では、30人5グループ(延べ150人・日)を目標とする。</p> <p>[2] 達成状況 現状では、成果があがっていない。西遊旅行問い合わせがあったが、コロナ禍で、民宿の受け入れが困難な状況にある。</p> |
| 活動の効果 | <p>エコツアー実施により下記のような波及効果が見込める。</p> <p>1) 次世代を担う子ども達・学童・学生などへの、国立公園の意義や生物多様性の啓発</p> <p>2) 民宿への宿泊客増にともなう、雇用回復と地域経済の再活性化</p> <p>3) キャンプ指導・語り部としての人材養成と雇用増。</p> |

(2) 事業の実施内容

※補助事業の内容の各項目に合わせて、実施内容の詳細について、別紙「事業実施に係る報告」として記載してください。整備状況や活動の状況がわかる写真図版等を添付して、状況の説明を付けてください。
なお、別途報告書等をまとめている場合は、概要のみ記して、別添資料として添付していただければ結構です。

(3) 本事業で得られた成果を具体的に記述してください。

- 1) ツアーを創成することができた。
一般観光客向けには「島めぐりツアー」を、学童・生徒・学生対象には「学習・キャンプツアー」を創成して、募集した。
- 2) 新たに「口永良部島観光サイト」とするホームページを立ち上げ、宣伝媒体とすることができた。
ホームページ上で、ツアーを募集した。
- 3) 観光案内所の充実を図った。
 - ・観光案内所の位置が分かるように、のぼりを立てた。
 - ・案内所内に、タブレットを設置し、観光スポットを案内する映像を上映できるようにした。
 - ・タブレットは、タッチパネル型にし、必要とする火山情報や注意情報を入手したり、行き先を探したりできるようにした。
- 4) 集落の史跡には、由来を記した看板を掲示した。
- 5) 観光客が、休息できる木製のベンチを作成設置し、地元の人たちとの交流の場とできるようにした。
- 6) ホームページとともに、LINEを活用した口永良部島の観光情報の発信ができる体制を整えた。
- 7) ガイドやガイド志望者、民宿経営者を対象にしたZOOM研修・講演会を開催し、人材養成と研修を行うことができた
- 8) 学習・キャンプツアーを実施するための基礎となる教材を整えることができた。
- 9) エラブオオコウモリの観察ガイド小冊子や、里めぐりのリーフレットを作成し、島の魅力を発信できる体制を整えた。また、ツアー客への情報提供の手段とした。
- 10) ツアー事務局の整備などを行い、持続的な事務局機能を維持できるようにした。

<事業実施体制>

交付申請書のとおり。

<事業実施スケジュール>

事業の実施スケジュール(実績)は別紙に添付した。

なお、事業終了後のスケジュールでは、終了直前に、ツアー事務局に問い合わせがあった「(株)西遊旅行」では、10月末から11月にかけて、3回の口永良部島ツアーの実施が決まっている。

<自然公園法、その他法令に関する手続き>

本事業実施のために届出等の手続きは、行わなかった。

注1 令和2年度（補正予算）国立・国定公園への誘客の推進事業費及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業費補助金交付申請書に添付した書類に変更がある場合、変更後の書類を添付してください。

注2 記入欄は必要に応じて本様式を引き伸ばして使用してください。